

令和4年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

# 成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：羽幌地域生物多様性保全協議会

活動地域：留萌振興局管内 8つの市町村

(天塩町・遠別町・初山別村・羽幌町  
・苫前町・小平町・留萌市・増毛町)

活動におけるテーマ

『 ゆたかな留萌地域(ローカルSDGs) × 海鳥(seabird)  
= 留萌ローカルSeabirDGs 』

# 活動団体および活動地域の紹介

## 羽幌地域生物多様性保全協議会：

## 羽幌シーバードフレンドリー(SBF)

## 推進協議会の財務機関

…羽幌町や北海道、環境省、漁協や農協、地域の事業者、地域づくり団体などで構成されている任意団体

<取り組み>

### ◆ シーバードフレンドリー(SBF)

**認証制度** (2017年～)

「**環境保全**」で「**地域振興**」を目指す

環境にやさしい取り組みを行う、地域の事業者を認証・応援

→環境保全への意識や取り組みを広める



### ◆ 地元高校と連携した環境学習

「総合的な探求の時間」を活用

授業数：年間約20時間 (2018年～)

## 留萌地域

：留萌振興局管内  
8つの市町村

◆ 日本海に面した  
南北に長い地域

◆ 天売島(羽幌町沖合)  
→世界的な海鳥の繁殖地

◆ 海岸線178kmを縦断するルート  
→「日本海オロロンライン」

<地域資源>

◆ **多様で豊富な食資源**

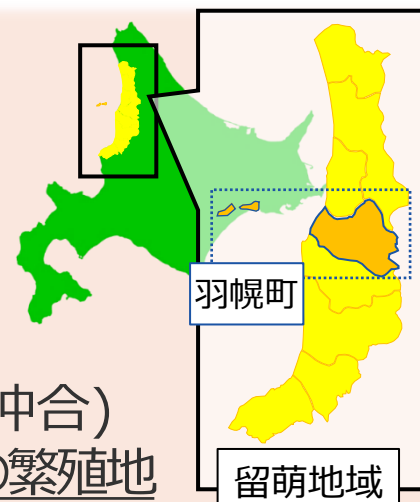
◆ **海鳥・渡り鳥のフライウェイ**

<地域課題>

✓ **人口減少**

✓ **産業基盤がぜい弱**

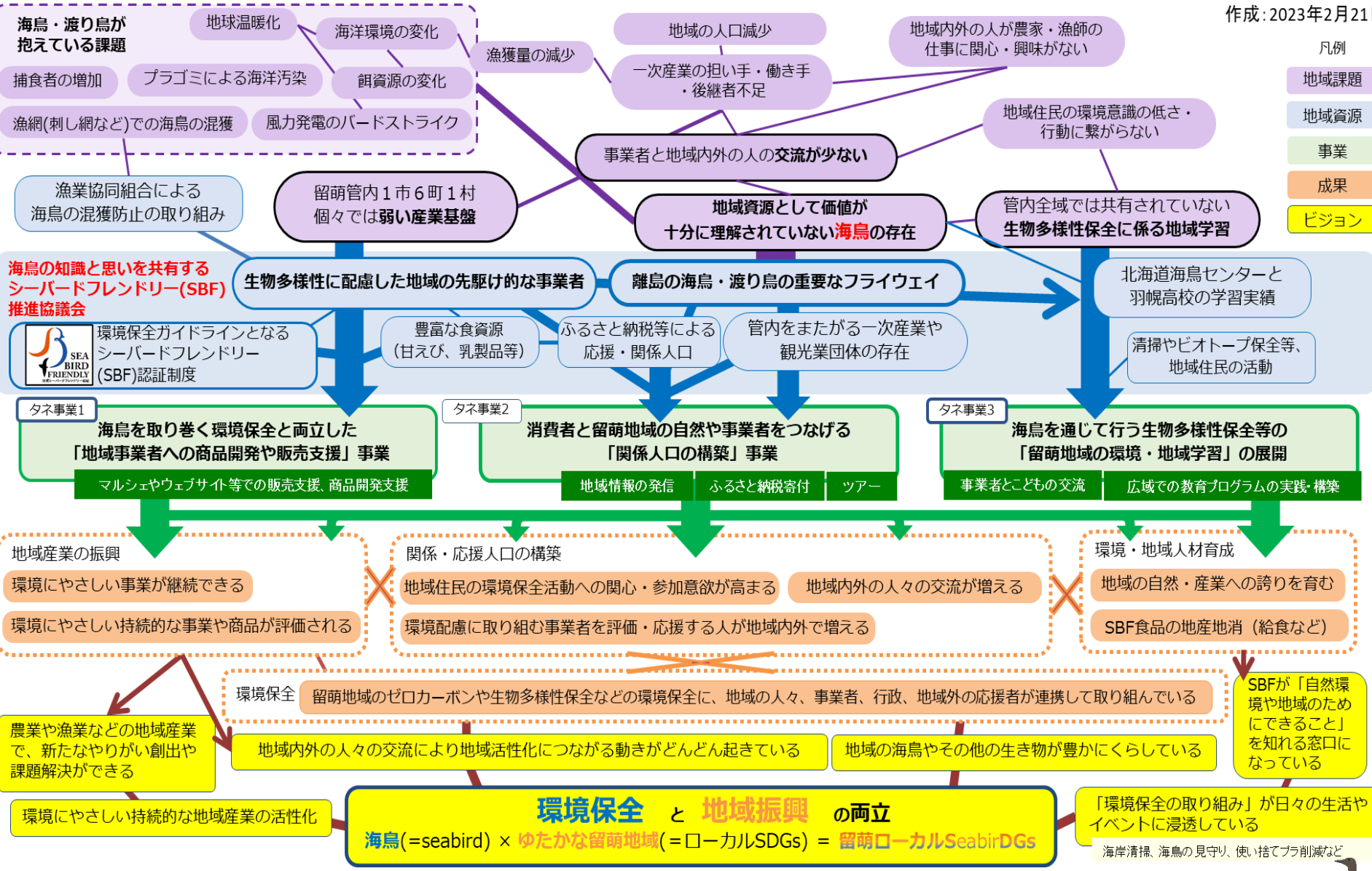
✓ **環境保全・生物多様性保全  
の意識が弱い**



# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

作成: 2023年2月21日

- 凡例
- 地域課題
  - 地域資源
  - 事業
  - 成果
  - ビジョン



# 地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			全国キックオフ ミーティング					北海道ブロック 中間共有会				全国 成果共有会
実施したこと			SBF認証制度改定検討部会 認証制度改定の協議									
			ファンドレイジング 勉強会		管内事業者 SBFモニターツアー		GCF寄付者 アンケート/インタビュー				意見交換会	
								羽幌町GCF (R4年度)				
その他の活動		地元高校との環境教育 (20時間)						(普及啓発活動) 日本最大の鳥イベント	(普及啓発活動) 東京水族館共同イベント			

## ◆ SBF認証制度検討部会の設置と開催 (6月～)

SBFの課題解決 (認証制度改定、留萌地域内外の関係人口拡大 等) に向けて  
多分野からの意見 : **漁業者(苫前町)・観光業者(留萌市)**にご参加 (計10回実施)

## ◆ 管内事業者との関係づくりと協働の模索

### 1. SBFモニターツアー (8月31日)

参加 : 8事業者(酪農業:1,農業:2,漁業:2,水産加工業:2,金融業:1)

### 2. 今後の協議会活動に係る意見交換会 (2月2日)

新認証制度と協議会(『海鳥の知識と思い』を共有した人達の地域づくりの場)の打ち出し

## ◆ 羽幌町ガバメントクラウドファンディング (GCF) 寄付者との交流

1. 寄付者交流の前段階・寄付に係る勉強会 (6月30日) 講師 : ファンドレイジング協会  
『活動をどんな人(ペルソナ)に「共感」してもらい、より応援して(貢献度を上げて)もらえるか』

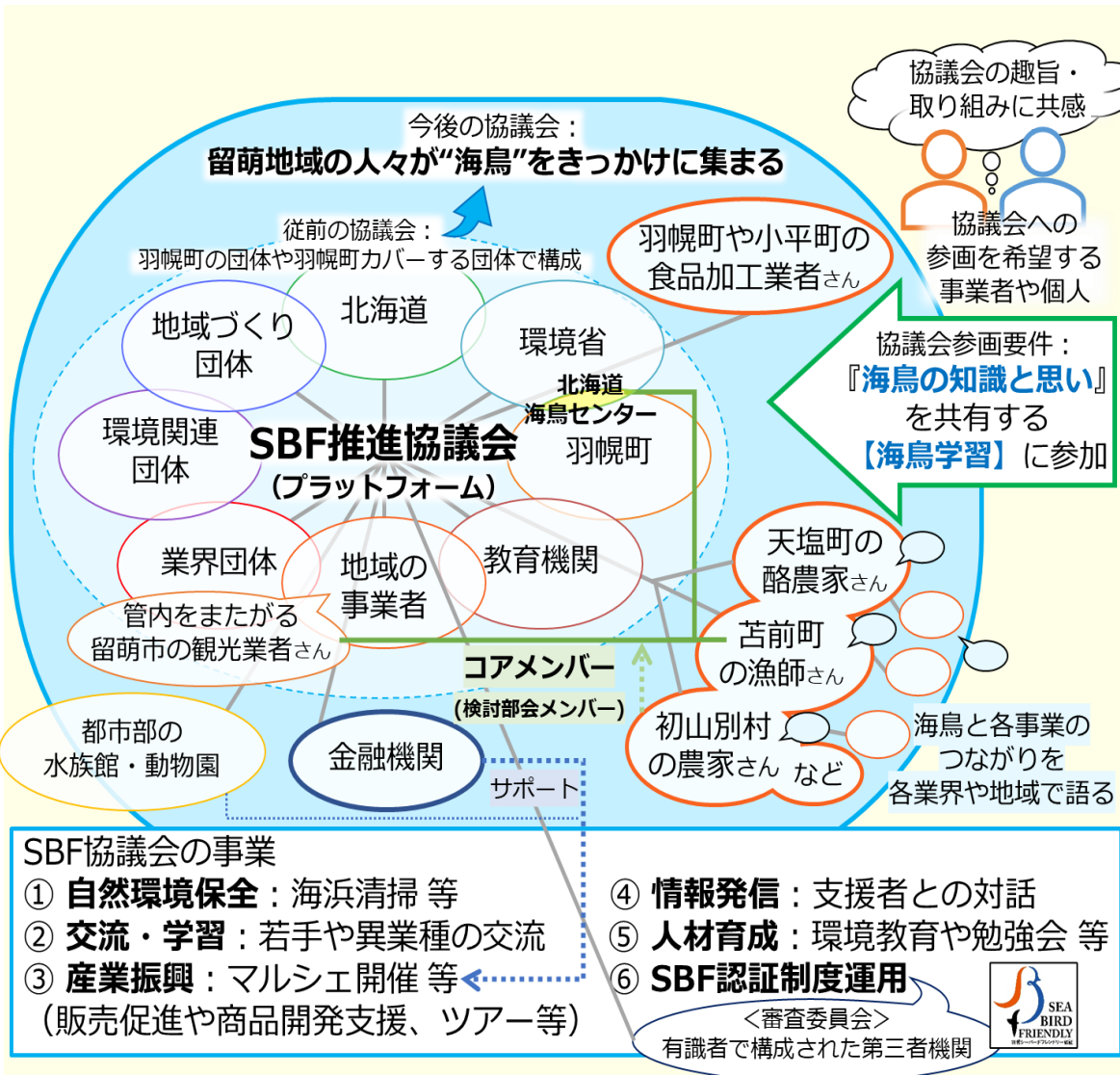
2. 寄付者へのヒアリング (アンケート調査 (10月)、インタビュー (11月23日))

アンケート送付数 : 655 → アンケート回答者数 : 44名(インタビュー協力者 : 3名)



# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】



【地域プラットフォームの変化】

- ◆ **羽幌町から留萌管内へエリアを拡大**  
SBF推進協議会の活動範囲を羽幌町から留萌地域全体へ広げ、SBF認証取得や商品開発に参画できる事業者規模を拡大
- ◆ **SBF認証制度は狭め SBF推進協議会は広く**  
SBF認証制度は実効性を高めるため認証範囲を狭めた一方で、SBF協議会は『海鳥の知識と思い』を共有する（『海鳥学習』を受ける）ことで事業者や個人が参画できる広いPFになった
- ◆ **地域事業者が参入しやすい協議会活動**  
協議会の活動はSBF認証制度を活動の軸に置きつつ、認証取得以外の事業を打ち出した

# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

## 【成果】

### 認証制度・協議会体制の変更により…

- ⇒ SBF認証制度の実効性が高まり、事業者の環境保全活動のガイドラインとなった
- ⇒ 協議会の事業が整理され、協議会に参画すると何ができるのかが明確化された

### 管内事業者との関係づくりにより…

- ⇒ 地域づくりに積極的な管内若手事業者のSHが増えた
- ⇒ 北海道海鳥センター(SBF事務局)以外の事業主体となるSHが複数人できた

### GCF寄付者との交流により…

- ⇒ GCF寄付のモチベーションやニーズ、コミュニケーション方策の情報が得られた

## 【課題】

### SHとの協力・コミュニケーションの体制

- ✓ 北海道海鳥センター以外の主体との協力
- ✓ 地域の漁業者・農業者に説明できるストーリー(資料やコミュニケーションペーパー等)のブラッシュアップ
- ✓ 事務局メンバーの異動等があっても協議会の活動主体の事業者との連携できる工夫

### 今後の活動に係る課題

- ✓ 地域事業者の交流や勉強会の手法
- ✓ 広域で実施できるCFや資金活用のしくみ
- ✓ 留萌地域全体として、“海鳥”が地域の資源(貴重な自然、環境・地域学習の教材等)として認識されていない
- ✓ 海鳥や地域の生物多様性保全に共感する教育関係者とのつながりが弱い

# 活動における今後の展望

## ① 地域事業者と共有する【海鳥学習】のアップデート

＜目標＞ 各分野の事業者が海鳥と自分の仕事を一緒に語れる

- 【海鳥学習】の具体的な学習内容と方法
- 『海鳥の知識と思い』を協議会内で共有しつづける方策

## ② 地域の金融機関との商品開発・販売支援に係る連携の調整・推進（事業のタネ1）

／観光業者(コササル)とのツアー造成（事業のタネ2）

- ビジネス分野に強い金融機関との協力、支援策の具体化
- GCF寄付者の現地ツアー(6~7月頃実施)やコササル主体ツアー(農泊等)

## ③ 地域事業者を交えた事務局体制(海鳥センター以外の中心)の強化

- 海鳥センター以外でも協議会活動を主導できる事務局体制
- 海鳥センターメンバーの異動でも地域事業者との連携を維持する

